

現在の景気：県境を越えた移動制限の解除など（6 月 19 日）、自粛の緩和に伴って、非製造業では、持ち直しの動きが広がっている。百貨店や自動車販売では、売上が反転したほか、レジャー施設などでは入込みが徐々に回復している。建設・不動産では、建設需要への先行き懸念が高まってはいるが、相対的にはお堅調さを維持している。この間、製造業では、自動車の世界的な需要低迷などから、受注・生産の動きは緩慢なものに止まっている。これまでの県内景気牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、③災害復旧・復興工事需要、などに大きな変化はないが、感染第 2 波への警戒や消費者マインドの低迷への懸念など、企業の先行き警戒感は依然として強い。

3 か月程度の見通し：景況感は新型コロナウイルスの感染範囲・終息時期によって大きく左右される。夏季観光シーズンを迎えるが、都内感染者数の増加など第 2 波への警戒感も強まっており、しばらくは感染防止対策と集客の両面を睨んだ手探りの動きが続く。経済活動が徐々に正常化に向かうなか、千葉県では、昨秋の自然災害からの復興が道半ばの中で、コロナ禍による成田空港機能縮小などに見舞われているほか、オリ・パラ需要も肩透かしに終わっており、とくに影響の大きい地域や業種では、企業業績・資金繰り悪化、企業・消費者マインドのスパイラル的な後退にも十分に留意する必要がある。

個人消費：①回復基調。②5 月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、緊急事態宣言に伴う営業規模の縮小から、前年同月比 66.8%減の大幅減少となった。全面的に営業を再開した 6 月は、買い控えの反動から化粧品や子供服などが好調で、店舗によっては、前年比 1 割減程度まで回復している。自動車販売台数も、5 月は全体で同 48.9%減となった後、6 月は、一般乗用車（5 月：同 44.0%減→6 月：24.4%減）、軽乗用車（同 55.7%減→14.7%減）とともに持ち直した。

住宅建築：①反動増。②5 月の新設住宅着工戸数は、前年同月比 71.2%増加し、5 か月ぶりに前年を上回った。滞っていた着工手続きが再開したことなどから、千葉市で大型マンションの着工がみられた分譲（同 123.0%増）をはじめ、貸家（同 64.3%増）、持家（同 12.5%増）、いずれも増加した。

設備投資：①増加。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、5 月の工事床面積（年度累計）は前年同期比 23.7%増加し、工事予算額（同 34.8%増）も増加した。千葉経済センターによる県内企業 202 社アンケート調査（4 月実施）では、20 年度の期初計画は、19 年度実績額を 2.0%下回っている。

公共工事：①減少。②5 月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同期比 6.2%減少した。国（同 55.5%減）、県（同 24.2%減）、独立行政法人（同 15.8%減）ともに前年を下回った。

輸出：①減少。②5 月の成田、千葉、木更津 3 港合計通関輸出額は、前年同月比 8.4%減と 3 か月連続で減少した。成田空港では、中国向け半導体等製造装置（同 14.8%増）が増加したものの、米国向け内燃機関（同 48.2%減）や科学光学機器（同 33.2%減）などの減少により、同 7.4%減と 3 か月連続で減少した。千葉港は、石油製品（同 15.9%増）は増加したが、有機化合物（同 28.0%減）や鉄鋼（同 13.5%減）などが減少し、同 5.5%減と 2 か月ぶりに前年を下回った。木更津港は、自動車（同 59.3%減）や鉄鋼（同 43.1%減）の減少などで、同 45.8%減と 2 か月連続で前年を下回った。

生産活動：①減少。②4 月の県鉱工業生産指数（季調済）は、90.9 と 2 か月連続で低下した。主力の化学工業（前月比 0.3%増）は増加したものの、鉄鋼業（同 13.7%減）や食料品工業（同 9.0%減）、金属製品工業（同 5.9%減）などが減少した。

観光：①反転。②県境移動制限の緩和を受けて、鴨川シーワールドが県外からの来場客の受け入れを 6 月 19 日に再開したほか、東京ディズニーリゾートも 7 月 1 日から営業を再開するなど、県内の観光施設は徐々に活気を取り戻しつつある。宿泊は、都内個人客が多い南房総地区では週末の稼働率が回復しつつある一方、訪日客・団体客のウェイトが高い成田空港周辺や TDR が休業していた浦安地区では厳しい状況が続いている。都市部では、老朽化したホテル・旅館がコロナ禍を機に閉館するケースが出始めている。

雇用情勢：①減少。②5 月の有効求人倍率（季調値）は、1.00 倍（前月比 0.1 ポイント減）と 5 か月連続で低下し、低下幅は第一次オイルショック（75 年 1 月）以来の大きさとなった。求職者数（同 0.9%増）が増加する一方、求人数（同 8.3%減）が減少した。宿泊業・飲食サービス業（前年同月比 58.6%減）や製造業（同 48.7%減）などで求人数の減少が目立った。

【トピックス】

- ・新型コロナウイルス対策強化のため、千葉県は総額 1,867 億円にのぼる 20 年度一般会計補正予算案を発表した（7 月 2 日）。ECMO（人工心肺装置）など医療機器の整備や医療従事者への慰労金支給などのほか、観光宿泊者へのキャッシュバックなどを盛り込んだ。補正予算額は過去最大となり、補正後の予算規模（2 兆 475 億円）は初めて 2 兆円を超えた。